

子どもと保護者と一緒に学ぶ

読書感想文の書き方

講師：NPO法人マナビエル

志田千帆さん、田中奈緒さん、松田美紀さん、福地朋子さん

令和 8 年 7 月 30 日（木） 13:00~15:45

対象：小学校 3 年生~6 年生の子どもとその保護者 25 組

場所：大阪市立中央図書館 5 階 中会議室・大会議室

【第1部 いっしょに本を読もう】 13:00~14:00
~~子どもと保護者一緒にのプログラム~~（約 60 分）

読書感想文を書くために、保護者と子どもと一緒に図書館で準備した本の中から選んだ本や、自分で持ってきた本を読む時間です。子どもたちと保護者が一緒に読書を楽しみました。

【第2部 子ども・保護者プログラム】 14:15~15:45
~~子どもと保護者、別々のプログラム~~（約 90 分）

第2部からは「子どもプログラム」と「保護者プログラム」に分かれて、別々の会場で各々のプログラムを受講しました。子どもたちは、第1部で読んだ本を元にワークシートに沿って進めていき、保護者は、子どもの気持ちを引き出す方法について学びました。

最後に保護者と子どもが合流し、それぞれ向き合って、受講したプログラムの実践・発表をおこないました。同時に講座の成果を確認しました。

~~NPO 法人マナビエルから保護者の皆様へ~~

読書感想文は、何のために書くものでしょう？
私たちは、本によって感じたことや考えたことを言語化するための、練習の場として捉えています。文章表現に苦手意識を持つことなく、伝える喜びと楽しさを知るチャンス...
それが、読書感想文です！

【第1部 いっしょに本を読もう】(大会議室)

13:00~14:00

~~持ってきた本や、図書館で用意している本の中から
好きな本をえらんで読もう!~~

第1部では、第2部で子どもたちが読書感想文を書くための準備として、保護者と子どもと一緒に本を選び、読む時間です。子どもたちは、図書館司書が用意した本を自由に手に取り、保護者や図書館司書に相談しながら選んでいました。家から持ってきた本を読んでいる子どもたちもいました。大会議室だけでなく、ホワイエで読むグループもありました。

皆さん、とても集中されていたので、会場にはとても静かな時間が流れていました。

【第2部 子どもプログラム】(中会議室)

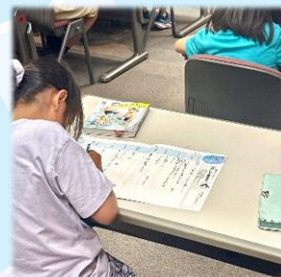
14:15~15:45

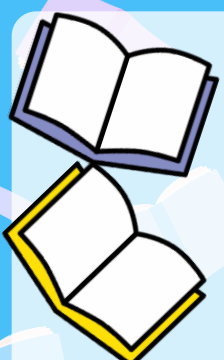
~~ワークシートに沿って、自分の気持ちをことばにして
読書感想文を書いてみよう!~~

講師：松田 美紀 講師補佐：福地 朋子

講師が用意したオリジナルワークシートの質問に答えていくと、あらあら不思議、感想文を書く基礎ができあがりました。自宅に帰ってから、感想文を仕上げる方法も教えてもらいました。子どもたちは自分の気持ちに気づき、思っていること、感じたことを表現できるようになりました。

感想文を書くことは、何か正解を導き出すということではありません。その答えは自分の中にあります。心が動いたこと、何かを強く感じたところにしおりを挟んでもらい、消しゴムを使わずに、自分の気持ちをどんどん書いてもらいました。各々の進むペースに違いはありましたが、講師からは「自分のペースで書いて大丈夫。急ぐ必要はありませんよ」と励まされて頑張っていました。子どもたちは書くことに迷った時、わからなくなった時や聞きたいことがある時は積極的に手を挙げて、講師に尋ねていました。





【第2部 保護者プログラム】(大会議室)

14:15~15:45

～子どもの気持ちをひきだす方法を学ぼう!～

講師：田中 奈緒 講師補佐：志田 千帆



～～まわりの大人の役割とは?～～
受け止め、認める

正解はない! 多様な視点

問いかけて、言葉を引き出す



ほとんどの保護者が初参加で、この講座に参加した理由として「子どもの宿題で読書感想文の作成が必要」だったことを挙げました。保護者も子ども時代、作文を書くことが苦手な人が多かったようです。講師からの「子どもが作文を書く時に、大人の視点でアドバイスしていませんか?」との問いかけに、多くの保護者がうなづかれていました。

講師からは、「大人の役割は、子どもの素直な考えや気持ちを否定・修正せず、言語化できたことを受け止め、尊重してあげること。子どもの心の中に生まれた意見や、感情を保護者が子どもに問いかけて引き出し、言語化を助けましょう」とのアドバイスを受けていました。

プログラムは、グループワークで進められ、「マナビエルジャーナル・ジム」に沿って実践されました。テーマ「あなたが自分をことばにして伝えた経験を教えてください」を与えられ、各自5分間、話さず集中して、心に浮かんだことを何でも、いくつでも、消しゴムを使わずにひたすら書いてもらいました。その後、指名された数名に発表してもらいました。子ども時代の経験を話す人もいて、自分の子どもたちと作文が苦手な気持ちを共有されたようでした。保護者プログラムでは、グループワークが主だったため、終始和やかな雰囲気の中、みなさんリラックスして受講されていました。

【保護者と子どもたち 大会議室に合流】15:20頃

子どもたちに、お母さん・お父さんの隣に座ってもらい、お互いに向き合って、保護者に子どもが書いた作文の内容を問いかけて引き出してもらいました。その後、何組かに講座の感想を発表してもらいました。「今まで苦手だったけど、講座を受けて作文を書くことが好きになった」、「去年はお母さんに助けてもらったけれど、今年は自分の力だけで書けると自信がついた」など、この講座に参加してよかったという感想が多かったです。保護者も、子どもの作文に対する気持ちの変化や頑張りを目の当たりにして喜ばれていました。





子どもアンケートより

講座の感想・先生へのメッセージ



- ・楽しかった！！
- ・どくしょかんそう文をもっとかきたいと思いました。おしえてくれてありがとうございます。
- ・おしえてくれてありがとうございます。
- ・今日は本当にありがとうございます！先生のおかげで読書感想文をうまく書ける気がします！
- ・読書感想文は、自分が思っていることを書けばいいと知った。
- ・とってもたのしかった。いっぱいおしえてくれてありがとう。
- ・ありがとう。
- ・読書感想文の下がきをしっかりとかけた。
- ・なんの本がすきですか？
- ・意外とかん単で、ルールが単じゅんだった。
- ・教えてくれてありがとうございました。
- ・読書感想文はむずかしかった。わかりやすかった。
- ・たのしかった。
- ・前よりぜんぶが上手にできた。楽しかった。
- ・きょうはおしえてくれてありがとうございました。
- ・楽しかったです。ありがとうございました。
- ・わかりやすかったです。
- ・むずかしかった。
- ・むずかしかったけど書けるきがする。
- ・読書感想文の書き方が分かった。
- ・今日はいろいろおしえてくれてありがとうございました。



保護者アンケートより

講座の感想・先生へのメッセージ



- ・とってもあたたかい雰囲気、内容もすばらしかったです。子どものためだけでなく、親自身も自分の心を言葉にすることができていないことに気付きました。一緒に育ちたいです。
- ・自分のことを書く機会がないのでよかった。他のお母様方のお話が聞けてよかったです。
- ・どこからどう指導していいかわからなかったのが、少し悩みが軽減した。本を読む時間があったのも良かったです。
- ・まなびえるジャーナルジムがおもしろかった。今度家でもやってみたいと思います。教えてくれてありがとうございました。
- ・否定をされると考えを言語化することが、どんどんできなくなっていく。改めて振り返ることができました。
- ・楽しくお話をして下さったので、わかりやすかったです。
- ・ジャーナル、興味はありましたが、やったことはなかったので良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・言語化する事にあまり難しく考えずに書いてみようと思いました。
- ・とてもやさしく教えて頂き、分かりやすかったと思います。子どもへの声かけの大切さが分かりました。声かけをしていなかったと思いました。
- ・今までの関わり方とは違う方法で勉強になりました。聴く力の大事さを知りました。
- ・子どもの読書感想文に対する関わり方の第一歩として勉強になりました。その後さらに良いものにしていく方法も知りたかったです。
- ・セミナーの中で話しのあったダメな声かけや態度をことごとくしていました。今回のテーマにかぎらず、普段からの子どもへのかかわり方を気をつけなければと思いました。
- ・子どもの作文力はもちろんですが、親の向き合い方も改めて教えて頂き、勉強になりました。子どもとテーマを考えてジャーナルジムをしてみたいと思いました。

【 この記事に関するお問い合わせ先 】

大阪市教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習担当

電話：06-6539-3348

FAX：06-6532-8520

